

2020 年度

第 23 期大阪精神分析セミナーのご案内

——— 精神療法家・心理療法家のためのセミナー ———

皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度もまた、第 23 期大阪精神分析セミナーの開講をご案内させていただきます。Covid-19 による昨今の不透明な社会情勢のなか、そして絶えざる不安を私たち一人一人が抱えるなかでこうしたご案内ができることも、皆様方の温かいご支持とご賛同のお蔭と心より感謝しております。

このセミナーは、2018 年度より 3 年間で 1 クールとして、1 年目は精神分析の基本概念、2 年目は臨床的理解、3 年目は精神分析的アプローチの実践的理解を学んでいただけるようプログラムを構成しています。もちろんセミナーにはどの年度からでもご参加いただけます。

3 年目となる今期は、疾患への精神分析的理解とアプローチをテーマにしています。日々の臨床実践の場で出会う、精神医学的な診断を背景に持つ患者さんやクライアントを、私たちは精神分析的にどのように理解し向き合うことができるのでしょうか。力動的な見立てや、分析的理解に基づいた治療的なかかわりについて学んでいきます。

また、開催方法に関しまして、未だ流動的な社会情勢を踏まえ、加えて遠方の先生方にもぜひ本セミナーにご参加いただける機会を提供したいとの思いから、今年度はオンラインでご参加いただけるように工夫しました。

今回のセミナーが、精神分析的な精神療法を学び始める方にも長年の実践経験をお持ちの方にも、さまざまな連想を生み積極的に学ぶ機会となりますことを願っています。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

2020 年 8 月 吉日

主 催 : 大阪精神療法・心理療法研究会

代 表 : 横井 公一

運営委員 : 片山貴美子 川野 由子 宿谷 仁美

鈴木千枝子 清野 百合 手塚千恵子

増尾 徳行

運営顧問 : 大矢 大 館 直彦

2020年度 第23期大阪精神分析セミナー

プログラムの概要

<プログラム>

月日	テーマ	講義概要	講師	指定討論
1 2020年 9月27日	疾患と力動的理解 序論：ケースレポートを中心に	このプログラムの初回に、私は疾患の力動的な理解について、総論を述べたいと思います。このセミナーに参加されている多くの皆さんが目指している実践は、さまざまな疾患に対する力動的なセラピーですが、そこで重要になるのが、精神力動的フォーミュレーションです。その点について、本セミナーとゆかりが深い狩野力八郎先生はケースレポートを作ることを薦めています。しかし、先生はそれを論文にはしなかったため、私はこの機会に、実際にどのようにしていくのかを含めてお話したいと思います。 参考図書 狩野力八郎：治療構造論、システム論、そして精神分析」分析研究、55巻3号、207-217 2011 N・コルタート：精神療法家として生き残ること 岩崎学術出版社 2007	館直彦先生	増尾 徳行
2 10月11日	統合失調症の力動的な理解と 精神分析的アプローチ	精神療法の治療に薬物療法は不可欠です。けれども、薬物療法が著効し得ない方々に心理療法を試みることで、治療効果が確実にある、また、精神病性の苦悩を汲みつつ人生に同伴する、これらを具体的にお話しします。統合失調症の方々の、心の痛み、つながりの痛み、存在の痛みはすぐそこにあります。また、非精神病性の事例においても、精神病部分への理解からは異なる景色が見えてきます。・痛みに応えたい、その歩みをお話しします。 参考図書 松木邦弘著『精神病というところ』新曜社 2000 松木邦弘・東中園聡編『精神病の精神分析的アプローチ』金剛出版 2007 (拙著が2編収められています)	東中園 聡先生	清野 百合
3 11月29日	うつ病の力動的な理解と 精神分析的アプローチ	うつ病は古典的には内因性精神障害とされてきた。精神分析/精神分析的な治療法は、患者の病や症状ではなく、病や症状で苦しむ人間の心を対象としている。本講義では、うつ病/うつ状態の力動的な理解と精神分析的アプローチについて紹介する。 参考図書 K.アブラハム著、下坂幸三訳『アブラハム論文集—抑うつ・強迫・去勢の精神分析』岩崎学術出版、1995 E.ジェイコブソン著、牛島定信訳『うつ病の精神分析』岩崎学術出版、2000 松木邦裕・賀来博光編『抑うつ病の精神分析的アプローチ—病理的理解と心理療法による援助の実例』金剛出版、2007 フレドリック・N. プッシュ他著、牛島定信・平島奈津子訳『うつ病の力動的な精神療法』金剛出版、2010	岡田 暁宜先生	鈴木千枝子
4 2021年 1月31日	クライン派からみたヒステリー概念	精神分析はFreudによる「ヒステリー研究」によって産声を上げました。現在では典型的なヒステリー症状を呈する患者に出会うことはほとんどなくなりましたが、心の基本的な在り方としての「ヒステリー概念」を理解することは、重症の患者を治療する上で今なお有益です。当日は、Freudのヒステリー研究をふり返った上で、現代クライン派におけるヒステリー概念をBrittonの考えを中心にお話しします。 参考図書 S.Freud(1895)「ヒステリー研究」の(観察1アンナ・O嬢)フロイト全集2、岩波書店 S.Freud(1905)「あるヒステリー分析の断片」フロイト全集6、岩波書店 R.Britton(2003)「性、死、超自我」の第1部、誠信書房	皆川 英明先生	手塚千恵子
5 2月21日	パーソナリティBPD,NPD)の 力動的な理解と 精神分析的アプローチ	パーソナリティ障害が臨床家の間で話題になることは以前と比べて随分減ったように思います。しかし、うつ病や適応障害と診断されている人の背景に自己愛的なパーソナリティ病理が潜んでいることはしばしば認められますし、愛着トラウマとの関連で境界パーソナリティには再度関心が集まってきています。この講義ではこうしたパーソナリティ病理の力動的な理解と治療について、実際のケースの展開を基に解説したいと思います。 参考図書 池田暁史・相田信男・藤山直樹編：力動精神医学のすすめ—狩野力八郎著作集2。金剛出版、東京。2019。 ギャバード、G. O.:精神力動的な精神医学—その臨床実践 第5版(DSM-5準拠)。岩崎学術出版社、東京。2019。	池田 暁史先生	片山貴美子

6	3月28日	発達障害への精神分析的アプローチ	<p>本講義では、私たちの臨床場面で遭遇することがますます多くなったASDもしくはAS傾向を持つクライアントとの精神分析的な心理療法について取り上げていきます。特に「薄い」AS傾向を持つクライアントをそのように見立てることは重要であり、その点についても取り上げていきたいと思っています。そしてこうした見立てをする場合、心理療法を進めていくうえでどのような理解や介入の枠組みを持つことが有用であるかについて私なりの考えを話していきたいと思っています。</p> <p>参考図書 福本修・平井正三共編『精神分析から見た成人の自閉スペクトラム』誠信書房 平井正三『意識性の臨床科学としての精神分析』金剛出版</p>	平井 正三先生	宿谷仁美
7	4月25日	トラウマ関連障害の力動的理解と精神分析的アプローチ	<p>臨床場面で出会うトラウマ関連疾患(PTSD、CPTSD、解離性障害)についてそれを理解し、治療的なアプローチを行う際には、フロイトの示した精神分析理論を拡大し、またある部分は補足する必要が生じます。ここではこれまでに葛藤モデルとの対比で論じられてきた欠損モデルや、探索的アプローチとの対比で論じられてきた支持的アプローチがより重要性を増すこととなります。この講義ではそれらのモデルやアプローチについて論じるとともに、それらではカバーしきれない解離性障害に関する理論と治療的アプローチについてもお示しすることを考えています。</p> <p>参考図書 岡野著 新・外傷性精神障害 岩崎学術出版社 2015年 岡野著 解離新時代 岩崎学術出版社 2014年</p>	岡野 憲一郎先生	手塚千恵子
8	5月30日	心身症の力動的理解と精神分析的アプローチ	<p>心が象徴化を使えず、その内容を抱えられない状態は、精神症状、行動化、そして身体化となって表れます。精神分析からみた心から身体への変換の道筋は、The Mysterious Leapと呼ばれ、さまざまな仮説がありますが、象徴化の問題は治療上の大きなテーマです。身体を言葉で取り扱う場合、治療者が概念ではなく生ものである身体にも開かれていることが重要であるともいえます。臨床素材を使いながら話ってみましょう。</p> <p>参考図書 Psychosomatics Today, ed. Marilia Aisenstein, Elsa Rappoport de Aisenberg Karnac. (翻訳されつつある～間に合うかどうか) 身体という劇場。ジョイス・マクドゥーガル 創元社(絶版)</p>	高野 晶先生	増尾 徳行
9	6月27日	摂食障害の力動的理解と精神分析的アプローチ	<p>本講では、摂食障害の持つ多様な病像に底在する病理の本質を力動的に捉えつつ、様々なタイプの摂食障害について、力動的観点から理解を提示し、それぞれの治療とマネージメントのあり方について、臨床例を提示しつつ解説します。摂食障害患者の治療にあたる精神科や心療内科の医師には、患者の持ち込む病的状態のアセスメント能力を高められるよう、心理職には摂食障害患者の心理療法を行う際の注意点が理解できるよう構成されています。</p> <p>参考図書 Marilyn Lawrence, 'The Anorexic Mind.' Karnac. Em Farrell, 'Lost for Words—the psychoanalysis of Anorexia and Bulimia.' Process Press.</p>	飛谷 渉先生	川野 由子
10	7月18日	精神分析の臨床実践 疾患と力動的理解 総括：日常臨床に活かす精神分析	<p>精神分析は、蓄積された濃密な臨床経験から成立している学問です。それゆえに、こころの臨床実践や患者理解に有用な理論・知識・技法が豊かにあります。それらを私たちの日常臨床に有効活用することで、患者に利益をもたらすことができます。その実際を講義します。</p> <p>参考図書 祖父江典人・細澤仁編 日常臨床に活かす精神分析 誠信書房 松木邦裕著 こころに出会う—臨床精神分析: その学びと学び方 創元社</p>	松木 邦裕先生	横井 公一

講師ご紹介（五十音順）

池田暁史先生	文教大学人間科学部
岡田暁宜先生	名古屋工業大学保健センター
岡野憲一郎先生	京都大学大学院教育学研究科
高野 晶先生	心の杜・新宿クリニック
館 直彦先生	大阪市立大学大学院／たちメンタルクリニック
飛谷 渉先生	大阪教育大学保健センター
東中園 聡先生	西岡病院
平井正三先生	御池心理療法センター／NPO 法人子どもの心理療法支援会
松木邦裕先生	精神分析オフィス／ちはや ACT クリニック／京都大学大学院
皆川英明先生	広島市精神保健福祉センター

受講申し込み要項

対 象：精神分析、精神分析的な精神療法・心理療法に関心をお持ちの医師（精神科医、心療内科医、小児科医など）、心理職（臨床心理士、公認心理師など）及び、心理臨床を学んでいる大学院生で守秘義務を遵守できる方

期 間：2020年9月27日（日）～2021年7月18日（日）

時 間：午前10時～午後12時30分（Web講義のみ）

会 場：Zoomを利用したオンラインで開催します。開催日が近づいてまいりましたら、事務局よりZoom会議室へのご招待メールをお送り致します。

定 員：Web講義80名

（お申し込みがZoom配信の許容量を超えて多数となりました場合にはお断り申し上げます。場合もございます。ご了承下さいますようお願い致します。）

申し込み方法：「大阪精神分析セミナー」ホームページ<<https://www.oskps.com>>より、参加申込書を選んで、必要事項を入力の上、送信ボタンを押してください。

（⇒ 右のQRコードをスマホのQRコードリーダーにかざして頂きますと、自動的に「大阪精神分析セミナー」のHPに入ります。）



大阪精神分析セミナーHP

費 用：全10回 Web講義のみ

原則としてご欠席される場合も含めて、1年間分を前納していただきます。

一般（¥35,000／分割なし） 学生（¥25,000／分割なし）

尚、2019年度にご参加いただいた方には、Webでの開催による返金分（一般15,000円、学生12,000円）を今年度の参加費から差し引かせて頂きます。2019年度ご参加のチェック漏れがないようお願い致します。

納入方法：一括全納

振込み先：申し込み受付け後に（9月頃より）、メールにて振込先をお知らせ致します。

締 切 日：2020年9月12日（土）（第1次締切り）

注 意：受講時の撮影ならびに録音は禁止しております。

守秘義務のない方のご参加はお受けできませんのでご了承ください。

また、受講中はイヤホンを装着して、ビデオをONにしてお顔が見えるようにしてください。

問い合わせ・連絡先：osaka-seminar@jcom.zaq.ne.jp

大阪精神分析セミナー事務局 受付担当 扇 喜美子宛

〒590-0132 堺市南区原山台1丁3-5-712